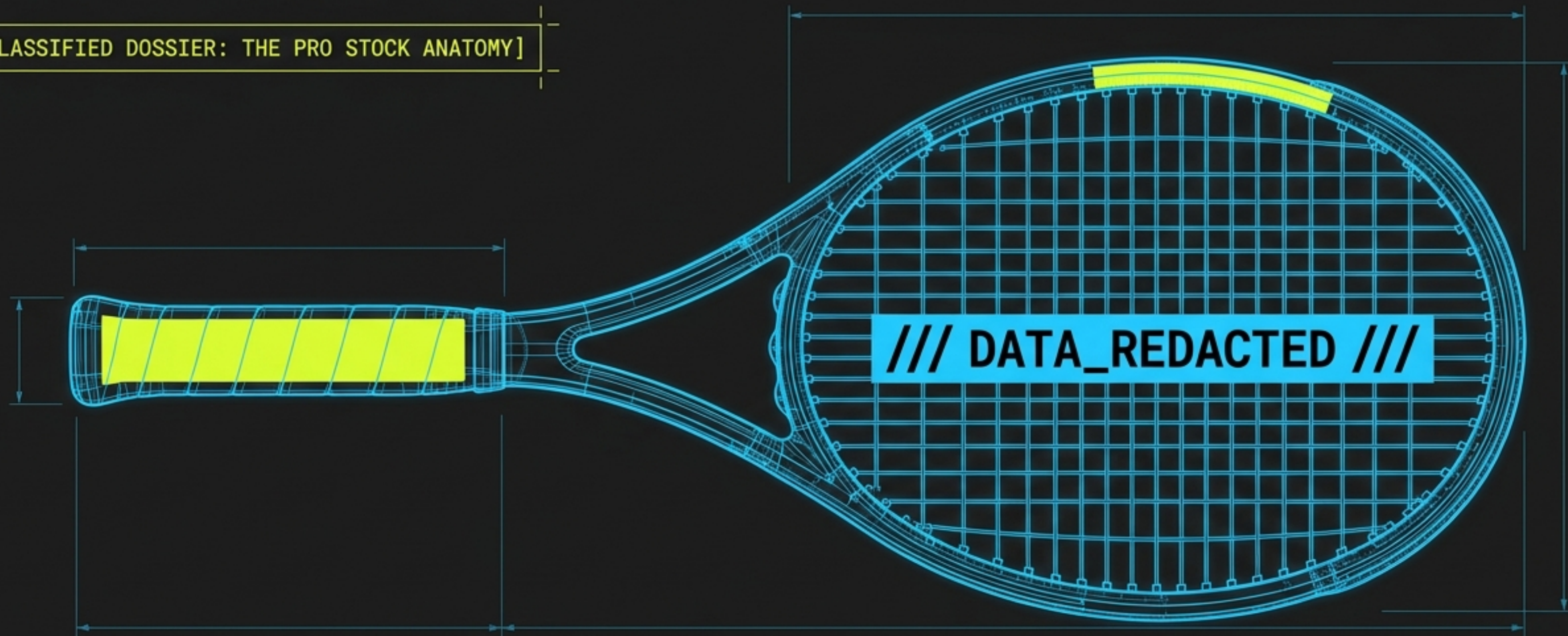
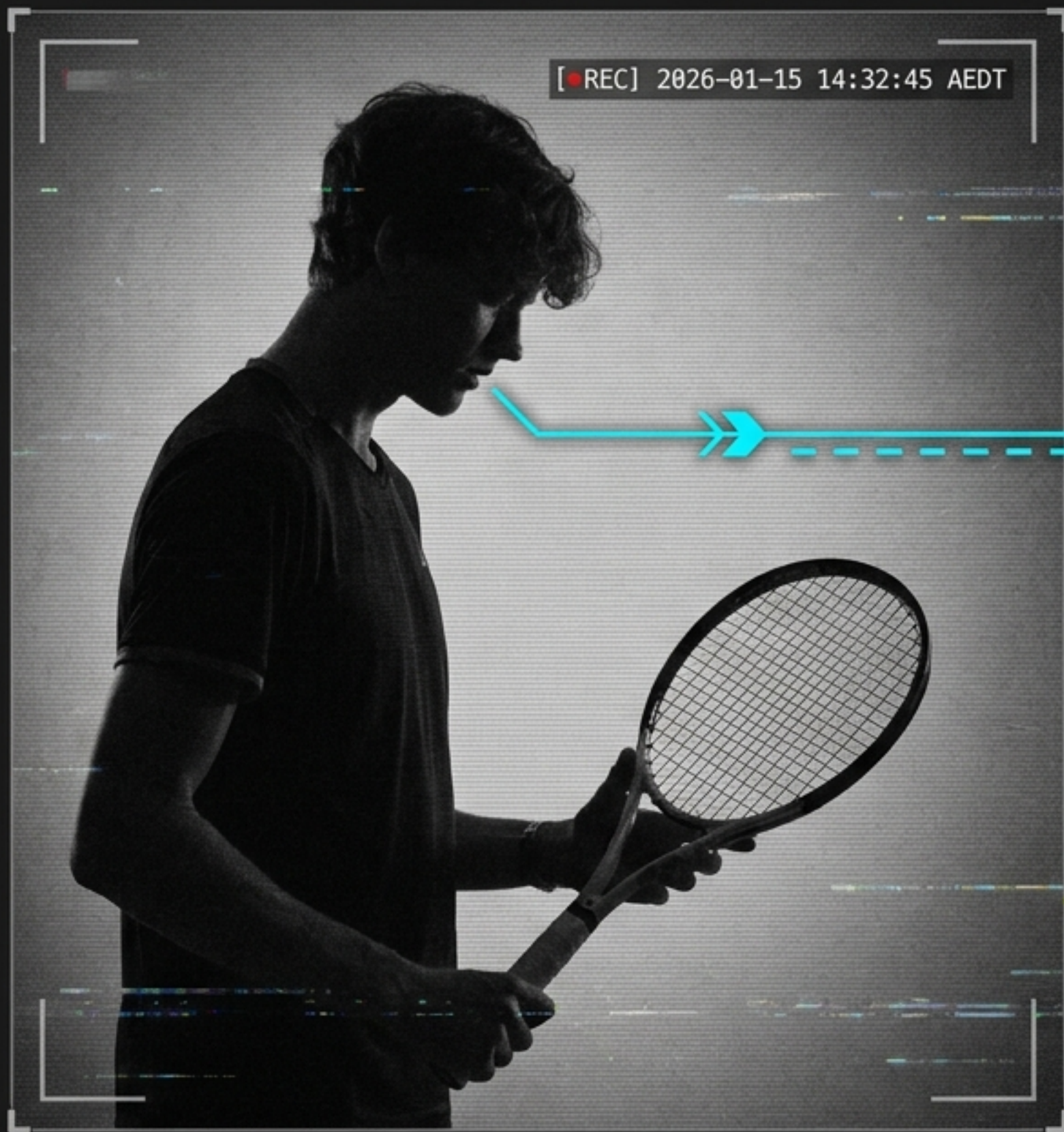


[CLASSIFIED DOSSIER: THE PRO STOCK ANATOMY]



最新モデルという幻想。

世界トッププロが「10年前のラケット」を使い続ける理由と、テニス業界の公然の秘密。



「このラケット、ダメだ。」 —— 2026年メルボルンの衝撃

[INCIDENT REPORT: YANNICK SINNER]

2026年1月、全豪オープン直前。自身が広告塔を務める新発売「Head Speed 2026」を練習で握った世界1位のシナーは、そのラケットを拒否した。

[THE REALITY]

数日後、全豪オープン本戦。彼の手には最新モデルではなく、「**TGT 301.4**」という暗号名を持つ、10年前（2016年）の金型で作られた古いラケットが握られていた。
世界1位ですら、最新技術を拒む。なぜか？

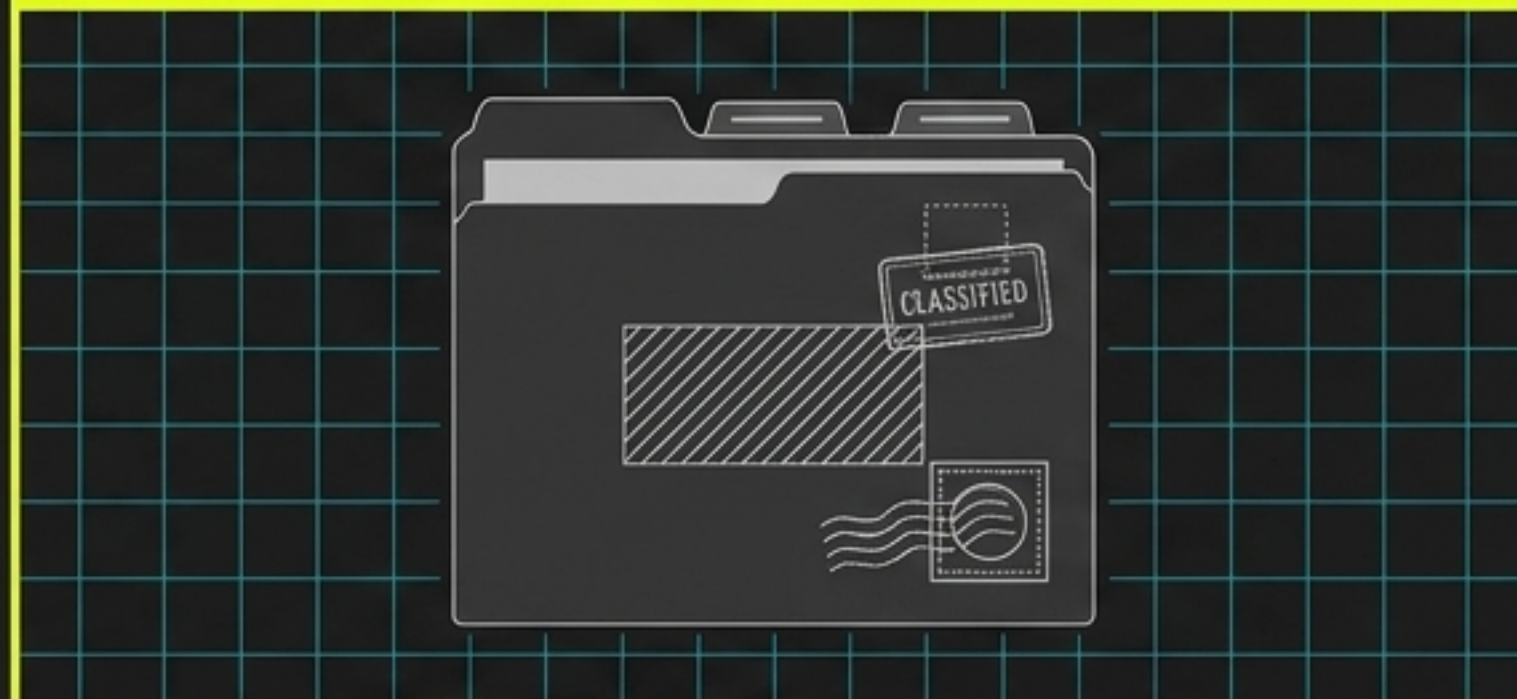
幻想を維持するシステム：ペイントジョブ

左側パネル (THE ILLUSION)



テレビに映る「最新ラケット」。
ペイントジョブ (Paint Job)：中身は選手が長年愛用する別設計のフレームだが、外側の塗装とグラフィックだけを現行の最新マーケティングモデルに見せかける業界の手法。

右側パネル (THE REALITY)



2013年 バボラ集団訴訟事件

「プロが使っている市販品と同じ」という宣伝が消費者の誤解を招くとして法廷へ。
結果：現在、ほぼ全メーカーの表記は「〇〇選手使用」から「〇〇選手推奨 (Endorsed by)」へと変更された。ペイントジョブは法的に認められた商習慣である。

「プロストック」の解剖学

[● REC] 2026-01-15 14:32:45 AEDT

RENDERING: 100% 1024x1024
TEXTURE: 100% 1024x1024
MATERIAL: 100% 1024x1024
LIGHTING: 100% 1024x1024
CAMERA: 100% 1024x1024
POST-PROCESS: 100% 1024x1024
TOTAL: 100% 1024x1024

[外装 (Cosmetic)]
スポンサー契約に基づく最新
モデルのグラフィック。

[プロストック (Pro Stock)]
基本的に「白紙のキャンバス」と
して工場を出荷される、選手専用
のカスタマイズ前提フレーム。

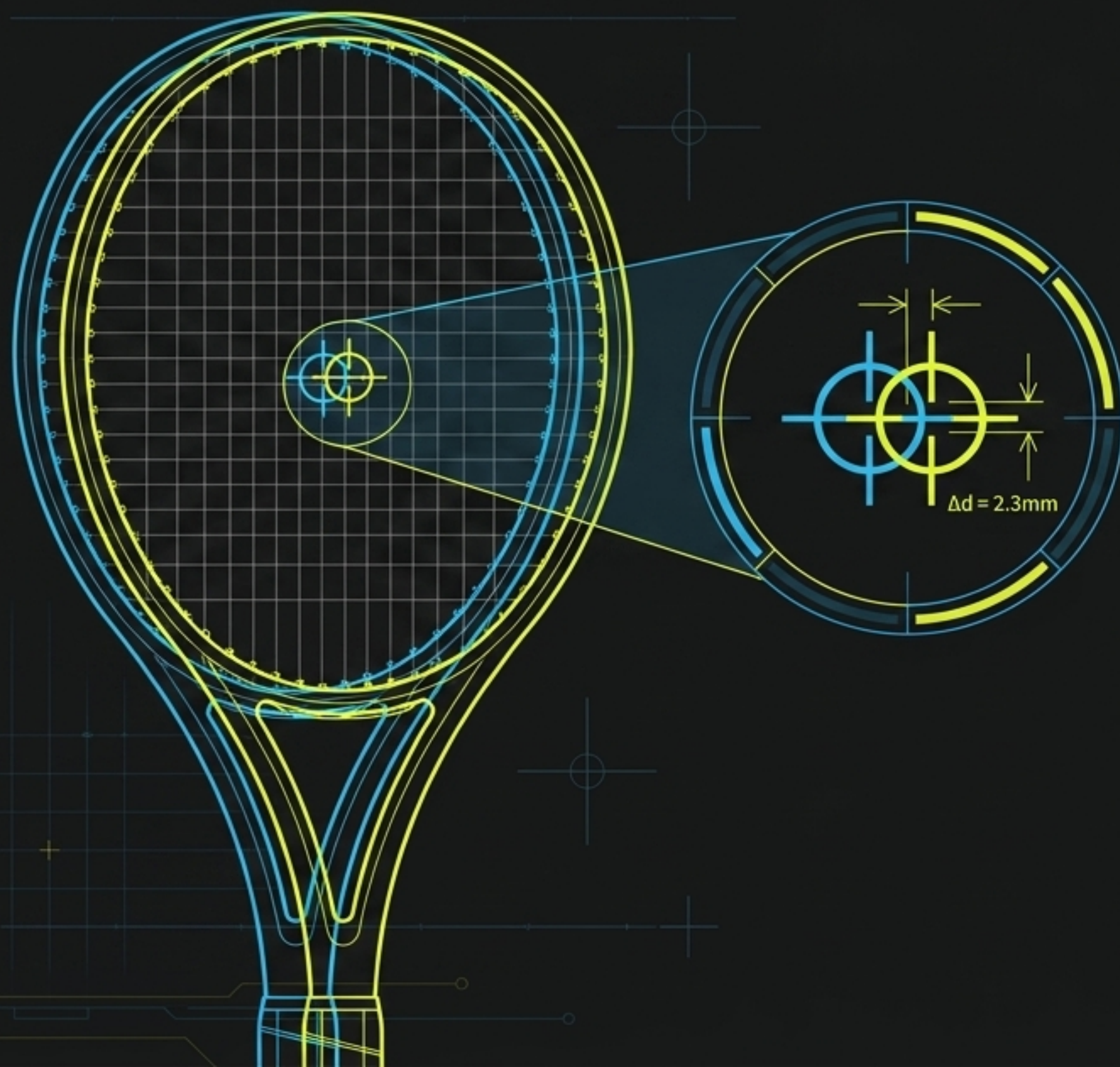
[チューニング (Tuning)]
鉛、シリコン、専用グリップパレ
ットを用いて、職人が特定の選手
のためだけにゼロからバランス
を構築する。



根本思想マトリクス：完成品 vs 白紙のキャンバス

[比較軸]	市販品 (Retail)	プロストック (Pro Stock)
前提	万人が買ってすぐ使える 「完成品」	職人が後から手を加える 「白紙ベース」
重量・バランス	平均的な筋力に合わせた 統一スペック	カスタム前提のため重く、 ばらつきが大きい
工場出荷時の交差	$\pm 7\text{g}$ 、バランス ± 2 ポイントの許容	選手1人のために個体差を 限りなくゼロ ($\pm 0\text{g}$) へ揃える
目的	扱いやすさと最新技術の体験	打感の「絶対的な再現性」と ミリ単位の調整

障壁1：金型が変われば、世界がズレる



[質量分布の罫]

ラケットの金型（モールド）が変わると、フレームの質量分布が変化する。

[スイートスポットの移動]

分布の変化は、ボールを弾き返す最大反発点の位置を数ミリ移動させてしまう。

[感覚のリセット]

何万球と打ち込み、筋肉と神経に刻み込まれた「完璧な打点」の記憶は、金型を変えた瞬間にリセットされてしまう。プロにとって、これは致命傷となる。

障壁4：契約金よりも重い「感触」

プロとメーカーの契約は「指定モデルを使うこと」が条件だが、実態は「ロゴの露出さえあれば中身は問わない」という黙認状態にある。



[The Sampras Incident]

ピート・サンprasは、引退までの15年間「Wilson Pro Staff」を一切変えなかった。

メーカー側から「せめて店頭最新の最新モデルの色（ペイントジョブ）に塗らせてくれ」と懇願されても、「感触が変わる」と拒否。

結果、彼はトップ契約金の一部を失ってでも、自分のラケットを守り抜いた。

究極のケーススタディ：ジョコビッチと「H22」

■ 2005

Head

■ 2006

Wilsonへ移籍

大型契約でWilsonへ移籍。しかし彼はHeadの「Radical MP」の打感を手放せなかった。

■ 2008

H22誕生

Wilsonは自社のプロストック部門で、Headの金型を徹底的に模倣した専用フレームを制作。それが暗号名「H22」。

■ 2009

Headへ回帰

2008年全豪で初優勝した時、彼の手には「Wilsonのロゴが塗られた、Head中身のラケット」があった。「契約は表面、金型は本質」を証明した。

[金型の系譜：Head Radical MP]

探偵業：プロストック識別難易度マトリクス

[Head]



難易度：低～中

フレーム内側の刻印コード（TGK, TGT等）の文化が根付いており、最も識別・追跡がしやすい。

[Wilson]



難易度：中

コードよりも、市販品にはない「プロ仕様表記」や、極端なスペック（重さ・バランス）の違いで判別する。

[Babolat]



難易度：高

コード情報が少なく、市販モデルの塗装と「旧設計の金型（スロート形状など）」の微妙なズレを見抜く観察眼が必要。

[Yonex]



難易度：高

形状での判別が難しく、重量配分や内部の特殊仕様（シリコン等）など、実測値での判断が求められる。

機密ファイル解読：Headのプロストックコード

[TGK]

旧世代のプロ用個体に多く見られるコード。市販品と外見が似ていても中身が全く異なることが多い。

[TGT]

シナーの「TGT 301.4」など、現行塗装のペイントジョブのベースとしてよく語られる。

[PT]

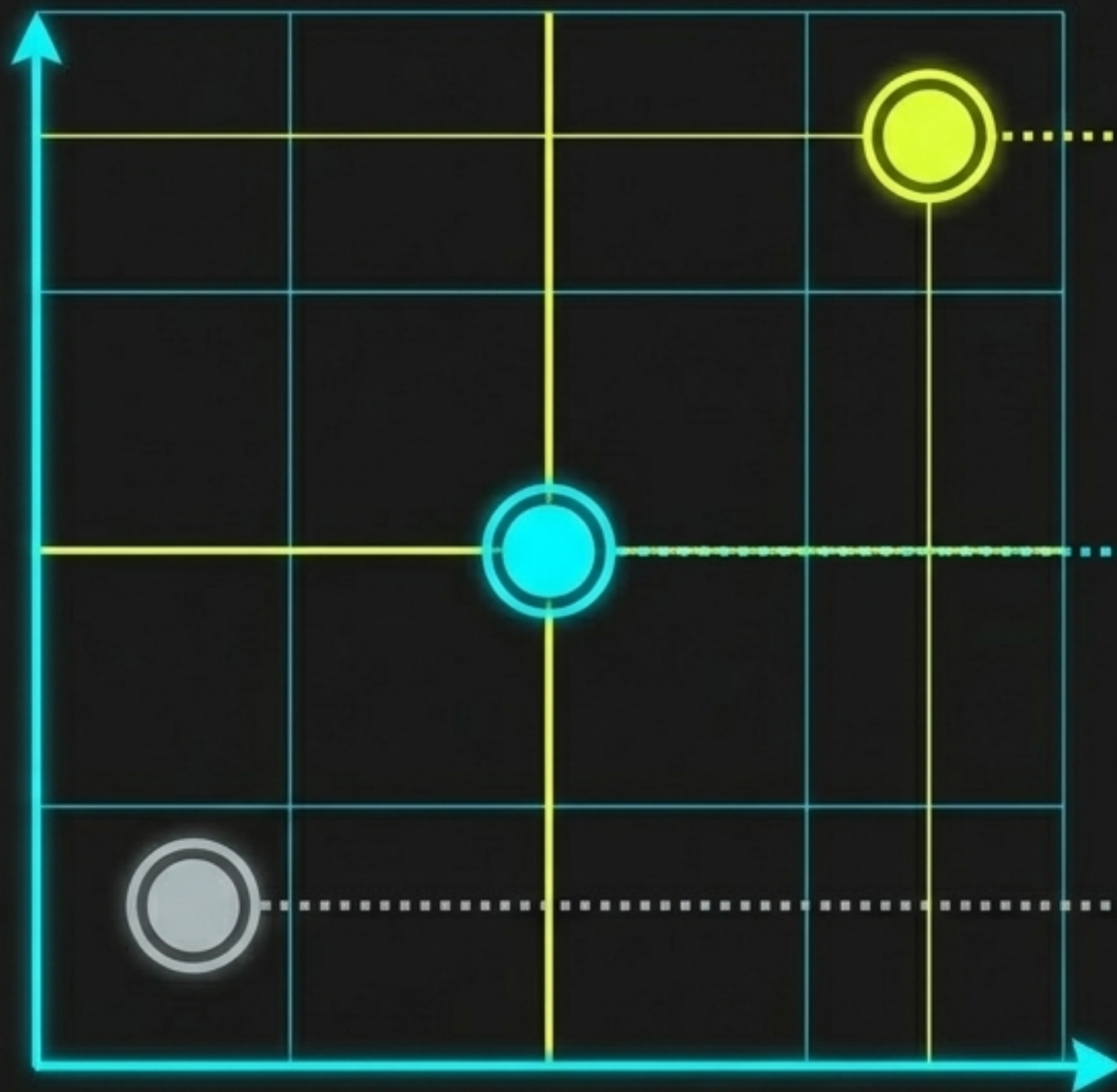
「プロツアー」などの伝統的な文脈で語られるコード。別設計の可能性が極めて高い。



WARNING: コードは「確定証拠」ではなく「入口」に過ぎない。ネット上の非公式情報に踊らされず、実測重量とバランスを必ず確認すること。

ザ・マーケット：入手ルートとリスク・リターン

縦軸：信頼性（真贋・スペックの確実性）



横軸：コスト（価格/手間）

[High Cost / High Trust]：専門ブログ・国内専門店

Prostock Depotなど独自のコネクションを持つ店舗。3万円～10万円超。素性や実測値が担保された安全なルート。

[Mid Cost / Mid Trust]：海外専門サイト

prostocktennis.comなど。400ドル以上が相場だが、H22などの有名個体が出回る。個人輸入のハードルあり。

[Low Cost / Low Trust]：フリマアプリ・オークション
メルカリやヤフオク。スイングウェイトが不明な場合が多く、偽物や「自分に合わない重すぎる個体」を引くリスク大。

警告：それは「神の杖」か、「鉄の棒」か



● 過剰なスペック

プロストックは一般的に市販品より重く、極端なバランスを持つことが多い。

● 扱いきれない現実

自身の明確な要求スペック（スイングウェイト、重量、バランス）を言語化できないアマチュアにとって、プロストックはただの「重くて扱いにくい鉄の棒」と化す。

最適解

ほとんどのアマチュアにとっては、謎のプロストックを買うよりも、「市販ラケットを自分用にカスタム（鉛やグリップ調整）すること」の方が、実用的で合理的な正解である。

結論：彼らが教えてくれる「真の教訓」

プロにとって、ラケットは「新しいほど良い」ものではない。それは、自身のプレースタイルと勝利をミリ単位で完璧に「再現」するための装置である。

- 最新モデルのマーケティングに飛びつく必要はない。
- もし今のラケットで結果が出ているなら、無理に変える必要はない。
- 重要なのは、道具に縛られることなく、**「自分の腕の延長となる1本」**を丁寧に探し、育て続けることである。